

環境教育プログラムにおけるねらいの全体像

各地で環境教育のプログラムが行われているが、果たしてそれらはゴールを設定し、それをブレイクダウンした達成目標を設定するなどして、全体像の中の位置づけを明確に行われているだろうか？時間や地域の資源、人材に限られているという言い訳や、何となく大切だと思う理由で、断片的なプログラムのままになっていないだろうか？

かねがね私は、生物を専門としている側から、生物分野に関して「このような視点や能力を高めるといいよ」という提案があったらよいのに、と考えていた（それは生物分野だけでなく、コミュニケーションや表現など、様々な分野に望むことである）。環境教育を実践している人がみんな生物に長けているわけではないだろうから、こういう視点、能力に焦点をあてたらよいのでは？という提案がされると、安心して？プログラムを企画したり実践したりできるのではないだろうか？そして、環境教育としての細かいねらいが設定されれば、現場の実践者にとっての日安となりうるだろう。

以前私は、『環境教育にとってのフィールドワーク（資源調査）の視点』を整理したことがあるが、それにならって『環境教育プログラムのねらいの例一覧』なるものをまとめる作業にとりかかっている。その一部を掲載した。

※一覧の全体像では、今のところ「感性の基本認識段階」「感性の応用活用段階」「自然の生態」「人と自然の関わり」「科学の力」「人間関係能力」に分けている。ここでは、「自然の生態」「人と自然の関わり」の部分のみ掲載した。

※以下は、直接自然体験で理解しやすいねらい／発達年齢ごとにニュアンスやプログラムを変える必要がある／この表もまだ断片的！

番号	カテゴリー	達成目標の例	キーワード	備考(発展)
26	自然の生態	生き物はみんなつながっている	関係	つながりが壊れるとバランスが崩れることへ
27		生き物は頼り頼られている	関係	生き物同士の相互関係(共生・寄生その他)
28		生き物同士の関係には、いろいろな関係がある	関係	相互関係の種類
29		生物同士の関係の一つとして、「食べる一食べられる」の関係がある	関係	食物連鎖～生産者から高次の消費者まで
30		生き物(エネルギー)は循環している	循環	食物連鎖との表現の違い
31		自然の中には、分解、という役割をもった生き物がいる	役割	役にたかない生き物はない、とつながる
32		自然の中にあるものは、全て何らかの存在の意味をもっている(無駄な生き物・自然はない)	役割・意味	人に対する役割だけでなく、自然どうしの役割=バランスがとれている
33		自然物の色には、何らかの意味がある	意味(色)	色から自然をみる
34		生物の鳴き声には、何らかの意味がある	意味(音)	音響生態学へ
35		木も戦っている	競争	親子で、他の生物との競争
36		生物は、生きるためにいろいろと工夫をしている	適応・工夫	学問的なものでなくてもよい～適応の話へ
37		生物は、環境に適応した形や生活をしている	適応・工夫	形や生活様式の面白さと、その意味を考える
38		生き物には、姿形や色、模様などを背景にとけこませてカモフラージュ(擬態)しているものがある	適応・工夫	→カモフラージュの意味、何に対してか？
39		種の旅(遠くに運ばれるために様々な工夫をしている)	適応・工夫	風・動物・落下・水などなど
40		生物には、お気に入りの場所(生息するのに適した/好きな)場所がある	生息場所	よく見つける人は、よくいる場所を知っている～ニッチの話へ
41		生物は、空間(高い場所、低い場所)を上手に使い分けている	生息場所	すみわけの一つ
42		生物が多様であることには、このような意味がある	多様性	多様にするために、どのような関わりができるか
43		林縁にはたくさんの生物がいる(林縁効果)	多様性	エコトーン(移行帯)には多様な生物がすんでいる
44		春は繁殖のシーズンだ	生物と季節	季節と生物との関係
45		生物は工夫して冬を越している(寒さから・乾燥から・餌の減少から)	生物と季節	季節と生物との関係。工夫
46		生物の様子から、季節(や環境)の様子を知ることができる	生物と環境	フェノロジー・標高・緯度と自然など
47		植物は光を上手に利用している	生物と光	光合成そのものではなく、光を受けるための工夫
48		林(自然)は段々と変化していく	遷移	林は管理しないと、極相林に向けて変化する
49		自然の中には、何らかの法則がある	一般化	木は先に行くほど細くなる、など
50		この場所は、こういう場所である(の認識)	場所の意識	その場所の特徴をつかむ
51		同じ種類のもので、環境や条件などによって違いがある	変化	環境要因～個性まで扱ってもよいかも
52	木は毎年生長している	変化・生長	成長の証拠を見つける	
53	痕跡からいろいろなことを知ることができる	視点	種類・行動・量・季節・状態などなど	
54	落ち物から、いろいろなことを知ることができる	視点	存在・季節・状態・行動などなど	
55	都会の中でも、視点を変えようと楽しめる(学べる)自然がたくさんある	視点	都会での環境教育の可能性	
56	身近な自然(里山・人工林など)は、人が何らかの手をつけている(管理している)自然である	管理	自然と人との関わり。人との関わりへの証拠を見つけられる	
57	自然の中には、いろいろな模様、デザインがある	模様	人がデザインとして利用していることへ	
58	生物の好き嫌いは人それぞれでいい(あってもいい)が、嫌いな・苦手な生き物の存在を認めることが大切だ	認識	好き嫌いからのアプローチ	
59	自然は、いろいろな形で人の役にたっている	人との関係	自然の役割の一つとしての、人との関わり	
60	自然林も人工林も、私たちにとって大切だ	人との関係	偏った見方をしないで、自然に自然をとらえる	
61	自然の中には、癒し効果がある	効果	癒し・リラックスを自然求めている人が増加	
62	生物を保護(救護)するかどうかの判断は難しい	保護	そのままにしておくか、手を出すべきか・・・	

発行：東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村ビジターセンター

〒198-0225 東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740
 TEL：0428-86-2551 FAX：0428-86-2316
 E-mail：yamafuru@hkr.ne.jp URL：http://www.yamafuru.com
 企画・編集：自然教育研究センター 2010年1月発行

< 編集後記 >

今年は暖冬？ 時折雪景色となるものの、例年より雪が少ない山ふるで編集作業を進めています。反対に、日当たりのよい所ではダンコウバイのほころんだつぼみやヒメオドリコソウなどの春の気配がちらほらと…。春号もがんばれよ！という自然の応援なのでしょうか？
 (原島 香)